横 浜 市 記 者 発 表 資 料

令和４年１月１７日
消防局予防課
消防局救急課

令和３年 火災・救急概況（速報）

～令和３年１月１日から令和３年 12 月 31 日まで～

① 火災件数が増加し、電気火災が過去最多に!!
住宅火災ではこんろからの火災が増え、死者の8割以上が高齢者

- 火災件数は 696 件で、前年と比べて 72 件(11.5%)増加しました。なかでも電気火災が 183 件（26.3%）発生し、前年と比べて 45 件増加して過去最多の件数となりました。
- 住宅火災は 304 件で、前年より 38 件増加し、こんろから出火した火災は 89 件となり住宅火災の３割を占め、死者 19 人のうち 16 人が 65 歳以上の高齢者で、16 人中 14 人が逃げ遅れて死亡しました。

② 救急出場件数、搬送人員が再び増加に転じ、救急出場件数は過去2番目の多さに!!

- 救急出場件数は 204,427 件で前年と比べて 9,788 件（5.0%）増加し、過去最多を記録した令和元年の 212,395 件に次いで、過去２番目を記録しました。
- 搬送人員は 171,022 人で前年と比べて 6,938 人（4.2%）増加し、搬送人員の割合を年代別にみると高齢者が 56.0%、傷病程度別にみると中等症以上が 55.3%を占めました。

１ 火災の概況（詳細は、別添資料１参照）※過去10年間の平均は平成24年から令和３年までとしています。

(1) 火災件数と焼損床面積【図１】【図２】【図３】

- 火災件数は696件（前年比72件増）で、なかでも電気火災が増加し過去最多183件（45件増）、全火災の26.3%を占めました。

※ 電気火災とは、電気をエネルギーとする機器や用品、設備などが発火源となった火災です。

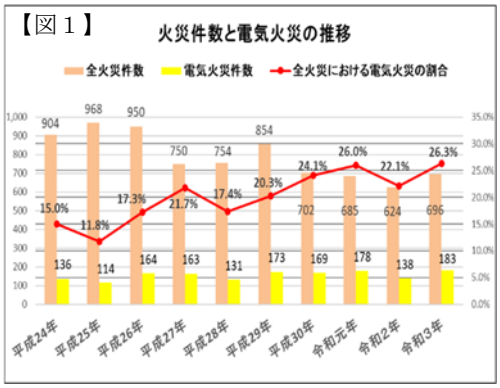
- 過去最多の発生件数となった電気火災の内訳として、リチウムイオンバッテリー（18件）、電気ストーブ（17件）、テーブルタップ（16件）から出火したものが上位となっています。

電気火災対策

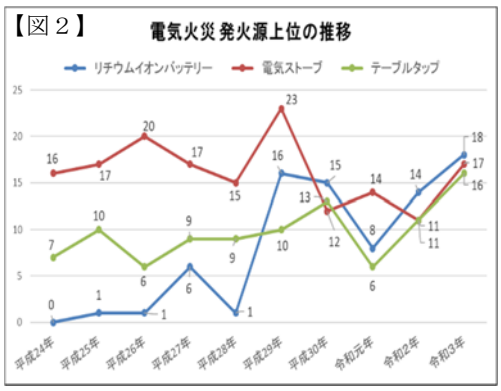
- リチウムイオンバッテリー（充電式の電気用品（スマートフォン等）に使われています。）は安全性を満たす「PSE マーク」のついたものを選んでください。
- ストーブを使用したまま寝たり、周りに燃えやすいものを置かないでください。
- テーブルタップは消耗品です。劣化したものは交換しましょう。（交換推奨：約３～７年）

- 焼損床面積の合計は8,817㎡で、前年と比べて3,965㎡(81.7%)増加しました。特に、工場や作業所、倉庫など大規模な建物で多くの焼損床面積が計上される火災が複数発生したためです。

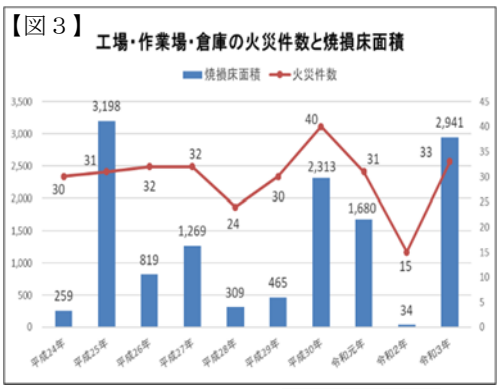
【図１】



【図２】



【図３】



裏面あり

(2)　主な出火原因【図４】【図５】

・　全火災（696件）の出火原因の上位は、「放火(疑いを含む)」122件(前年比17件減)、「こんろ」102件(30件増)、「たばこ」100件(１件増)の順となりました。

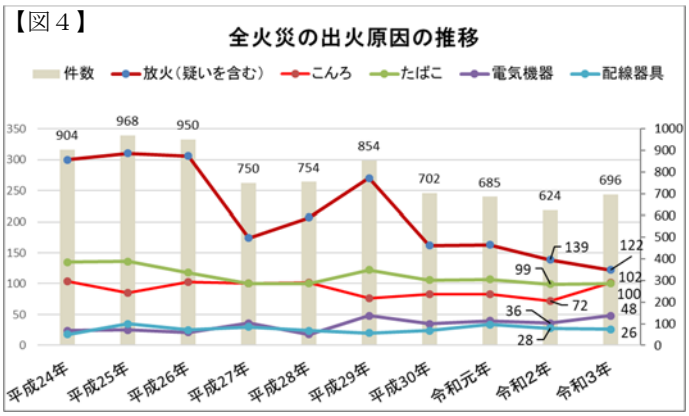
・　**住宅火災（304件）の出火原因の上位は、「こんろ」89件(前年比30件増)、「たばこ」34件(14件減)、「放火(疑いを含む)」23件(３件減)の順となりました。**

・　住宅火災におけるこんろから出火した火災は、揚げ物中に目を離していたものが34件（38.2%）を占めるほか、こんろの近くに可燃物を置いていたために出火したものが10件（11.2%）発生しています。

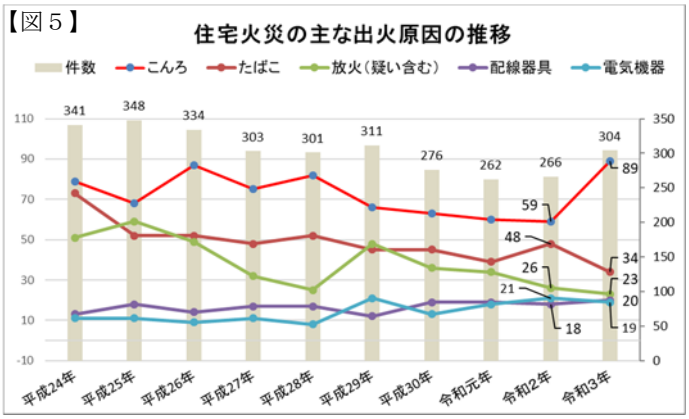
こんろ火災対策

調理中はその場を離れないことはもちろんのこと、こんろ周りに燃えやすい物を置かないでください。また、安全装置付きこんろ(Si センサーコンロ)を使いましょう。

【図４】



【図５】

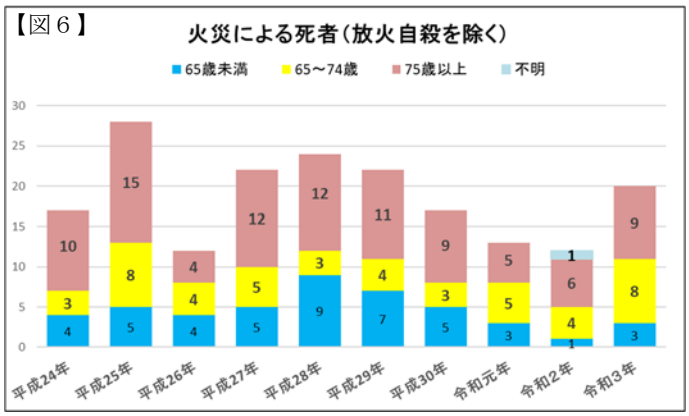


(3)　火災による死者【図６】【図７】

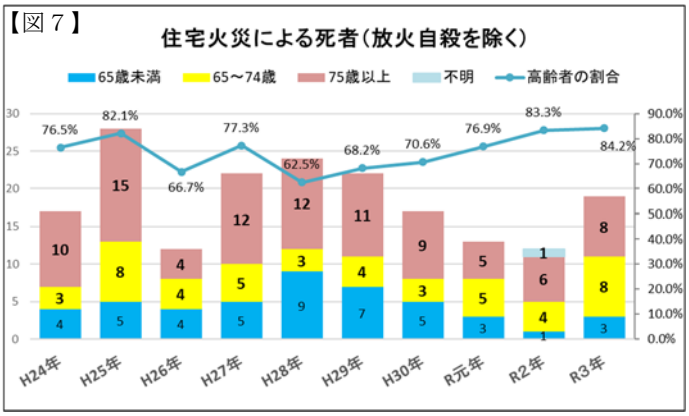
・　全火災による死者(放火自殺を除く)は20人で、前年と比べて８人（66.7%）増加しました。

・　**死者のうち、19人が住宅火災で発生し、うち16人が65歳以上の高齢者（９人が75歳以上）でした。また、16人のうち、14人（87.5%）が逃げ遅れて死亡し、12人が住宅用火災警報器未設置でした。**

【図６】



【図７】



住宅用火災警報器があなたと家族の命を守ります！

住宅用火災警報器が未設置の住宅は、火災件数、死者数共に約 10 倍となっています。住宅用火災警報器は火災の発生を早期に知らせてくれる重要な機器です。設置と定期的な点検、そして 10 年を経過したものは交換をお願いします。

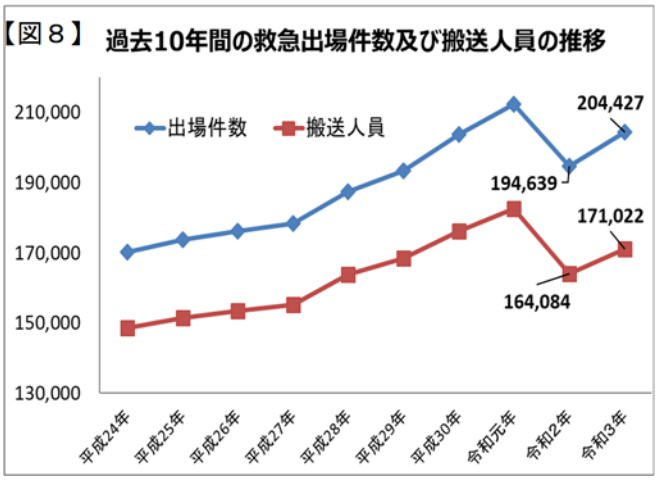
横浜市消防局マスコットキャラクター ハマくん

２　救急の概況（詳細は、別添資料２参照）

(1)　救急出場件数及び搬送人員【図８】

- 救急出場件数は 204,427 件で、前年と比べて 9,788 件（5.0%）増加しました。
- 搬送人員も 171,022 人で前年と比べて 6,938 人（4.2%）増加しました。
- １日あたりの平均救急出場件数は 560 件で、前年と比べて 28 件増加しました。
- ２分 34 秒に１回救急車が出場していることになります（前年は２分 42 秒に１回）。

【図８】

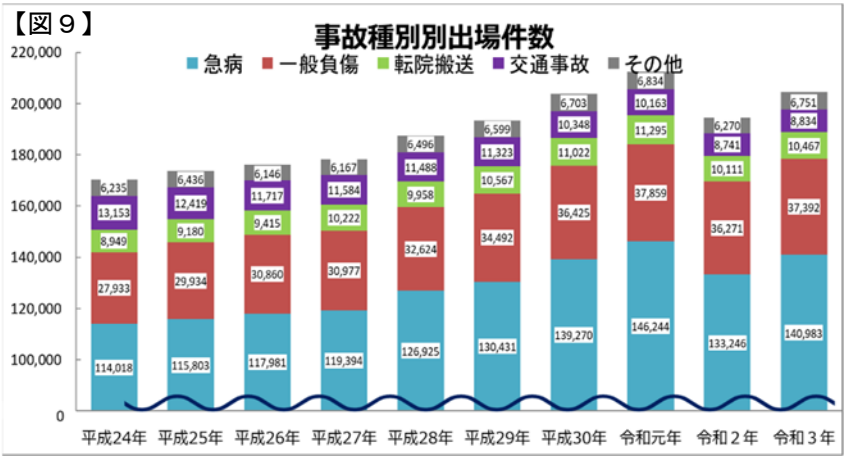


(2)　事故種別別出場件数【図９】【図 10】

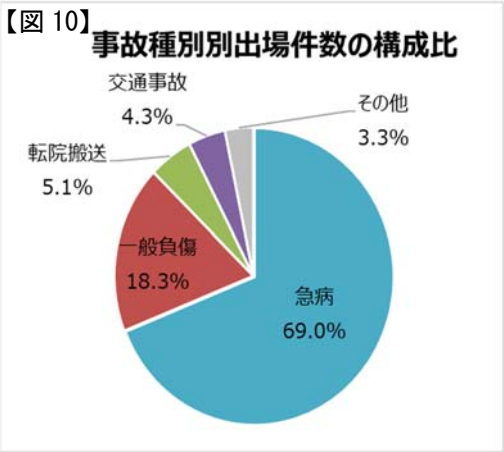
- 前年と比べて全ての事故種別で増加しました。
- 急病は 140,983 件で 7,737 件（5.8%）増加、一般負傷は 37,392 件で 1,121 件（3.1%）増加、転院搬送は 10,467 件で 356 件（3.5%）増加、交通事故は 8,834 件で 93 件（1.1%）増加しました。
- 全救急出場件数のうち、急病が 69.0%、一般負傷が 18.3%を占めました。

※　一般負傷とは、「労働災害や運動競技等に分類されない不慮の事故」をいい、住宅内での転倒・転落、やけど、熱中症等が該当します。

【図９】



【図 10】



Point　急な病気やけがで迷ったら・・・

受診の相談をしたい時は、「横浜市救急相談センター（＃7119 又は 045-232-7119）」＜年中無休・24 時間対応＞にダイヤルしてください。

また、パソコンやスマートフォンで、「横浜市救急受診ガイド」を利用することで、急な病気やけがの緊急性を確認できます。

＜横浜市救急受診ガイド＞

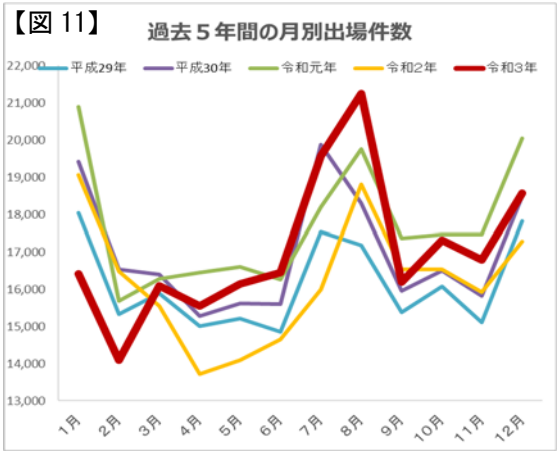
(3)　月別出場件数【図 11】

- ８月は 21,251 件で、新型コロナウイルス感染症患者の急増や熱中症の影響もあり、過去最多の月別出場件数を記録しました。
- 前年と比べて１月、２月、９月以外の月で増加しました。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
令和３年	16,422	14,099	16,086	15,551	16,140	16,447
令和２年	19,065	16,479	15,557	13,726	14,100	14,653
増減比	△ 13.9%	△ 14.4%	3.4%	13.3%	14.5%	12.2%

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
令和３年	19,567	21,251	16,201	17,306	16,792	18,565
令和２年	15,996	18,806	16,532	16,527	15,922	17,276
増減比	22.3%	13.0%	△ 2.0%	4.7%	5.5%	7.5%

【図 11】

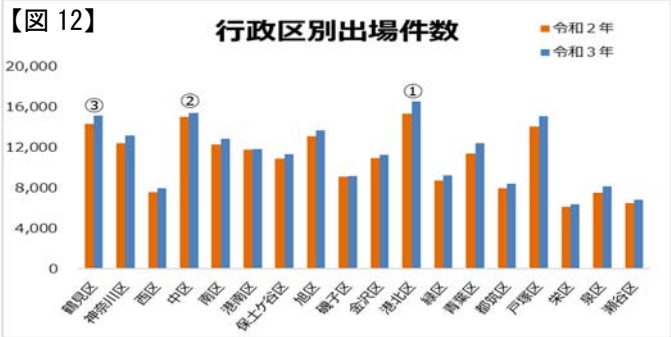


裏面あり

(4)　行政区別出場件数【図 12】

・　前年と比べて全ての行政区で増加しました。

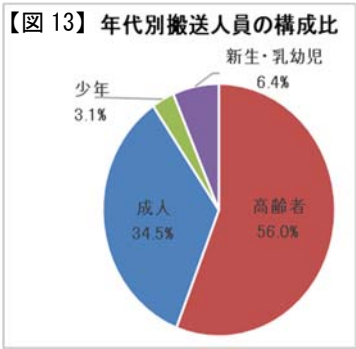
・　出場件数が多い行政区は、港北区（16,498 件）、中区（15,374 件）、鶴見区（15,124 件）の順となりました。

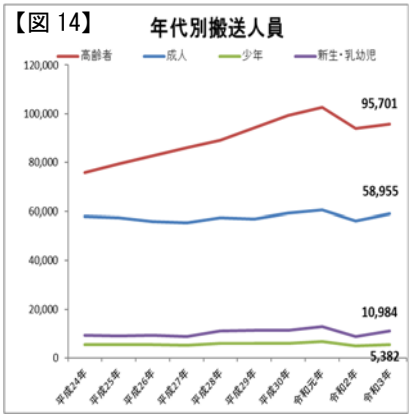


(5)　年代別搬送人員【図 13】【図 14】

・　前年と比べて全ての年代で増加しました。

・　搬送人員の年代別内訳は、**高齢者（65 歳以上）が 95,701 人（56.0%）**、成人（18 歳以上 65 歳未満）が 58,955 人（34.5%）、少年（７歳以上 18 歳未満）が 5,382 人（3.1%）、新生・乳幼児（７歳未満）が 10,984 人（6.4%）となりました。



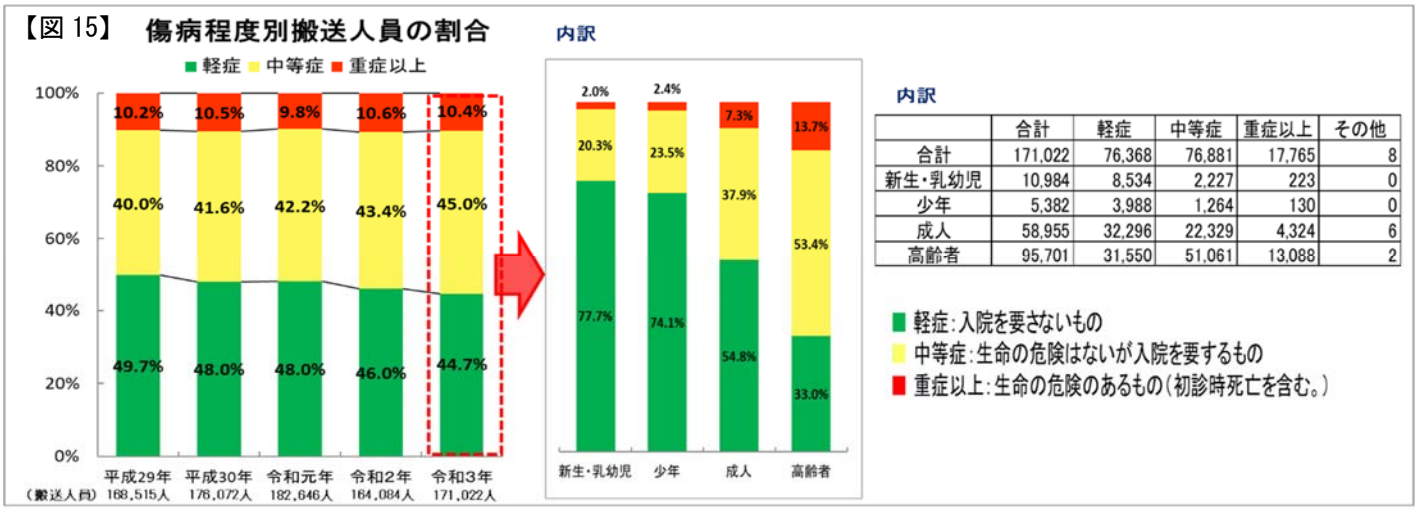


(6)　傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）【図 15】

・　前年と比べて全ての傷病程度で増加し、搬送人員に占める傷病程度別の割合は、**中等症以上が前年に引き続き半数以上を占めており、年々増加傾向となっています。**

・　搬送人員の傷病程度別内訳は、軽症が 76,368 人（44.7%）、中等症が 76,881 人（45.0%）、重症以上が 17,765 人（10.4%）となりました。

・　新生・乳幼児、少年では、７割以上が軽症であるのに対して、高齢者では入院が必要となる中等症及び重症以上の割合が６割以上となりました。



	合計	軽症	中等症	重症以上	その他
合計	171,022	76,368	76,881	17,765	8
新生・乳幼児	10,984	8,534	2,227	223	0
少年	5,382	3,988	1,264	130	0
成人	58,955	32,296	22,329	4,324	6
高齢者	95,701	31,550	51,061	13,088	2

※　グラフ等の割合は小数第２位を四捨五入しているため、表中の合計が 100.0%にならない場合があります。

例年、インフルエンザ等の感染症が流行する冬季や熱中症のリスクが高まる夏季に救急出場件数が多くなる傾向にあります。

特に新型コロナウイルスの感染予防では、３密を避け、マスクの着用、こまめな手洗い、手指消毒、換気などを行いましょう。

横浜市消防局マスコットキャラクター ハマくん

お問合せ先
（火災に関すること）　消防局予防課長　宇多　　範泰　Tel 045-334-6601
（救急に関すること）　消防局救急課長　長谷部　宏光　Tel 045-334-6771

火 災 概 況〈 速 報 〉

1　火災種別

単位：件

区分＼年別		令和３年（A）	令和２年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成24年～令和３年）（C）	増△減（A）－（C）
火災種別	火災件数	696	624	72	789	△93
	建物火災	463	380	83	468	△5
	住宅火災	304	266	38	305	△1
	林野火災	－	－	－	－	－
	車両火災	56	61	△5	66	△10
	船舶火災	2	3	△1	2	－
	航空機火災	－	－	－	－	－
	その他の火災	175	180	△5	253	△78

2　主な出火原因

単位：件

区分＼年別		令和３年（A）	令和２年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成24年～令和３年）（C）	増△減（A）－（C）
主な原因	放火（疑いを含む）	122	139	△17	215	△93
	こんろ	102	72	30	91	11
	たばこ	100	99	1	112	△12
	電気機器	48	36	12	33	15
	配線器具	26	28	△2	26	－

3　損害

区分＼年別		令和３年（A）	令和２年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成24年～令和３年）（C）	増△減（A）－（C）
損害	焼損床面積（㎡）　建物火災	8,817	4,852	3,965	6,851	1,966
	焼損床面積（㎡）　住宅火災	4,104	4,008	96	4,159	△55
	死者（人）	20	15	5	24	△4
	放火自殺者	－	3	△3	4	△4
	負傷者（人）	110	95	15	126	△16

4　行政区別火災発生状況

単位：件

区分＼年別		令和３年（A）	令和２年（B）	前年比（A）－（B）	過去10年間の平均（平成24年～令和３年）（C）	増△減（A）－（C）
行政区	鶴見区	54	49	5	75	△21
	神奈川区	37	41	△4	50	△13
	西区	35	30	5	35	－
	中区	84	58	26	71	13
	南区	42	30	12	47	△5
	港南区	46	41	5	45	1
	保土ケ谷区	35	26	9	36	△1
	旭区	41	41	－	49	△8
	磯子区	30	27	3	29	1
	金沢区	36	42	△6	37	△1
	港北区	52	46	6	67	△15
	緑区	25	29	△4	34	△9
	青葉区	39	29	10	43	△4
	都筑区	34	27	7	39	△5
	戸塚区	37	51	△14	50	△13
	栄区	16	12	4	20	△4
	泉区	30	24	6	33	△3
	瀬谷区	23	21	2	30	△7
合計		696	624	72	789	△93

備考　住宅火災の件数及び住宅火災の焼損床面積は建物火災の内数　また、放火自殺者数は死者数の内数
過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

救　急　概　況　〈　速　報　〉

単位：件

区　分＼年　別	令和３年		令和２年		増△減	増減比
	件数	構成比	件数	構成比		
出場件数	204,427		194,639		9,788	5.0%
１日当たりの出場件数	560		532		28	
出場率（何分何秒に１回）	２分34秒に１回		２分42秒に１回		―	
市民の救急車利用状況	18人に１人が利用		19人に１人が利用		―	

※令和２年の人口については、令和２年９月１日推計値（政策局総務部統計情報課資料）による。
（国勢調査実施につき、推計人口は令和２年10月から更新停止中のため最新の値を使用）
※令和３年の人口については、令和３年12月１日推計値（政策局総務部統計情報課資料）による。

事故種別別出場件数

単位：件

事故種別	令和３年	構成比	令和２年	構成比	増△減	増減比
急　　病	140,983	69.0%	133,246	68.5%	7,737	5.8%
一　般　負　傷	37,392	18.3%	36,271	18.6%	1,121	3.1%
転院搬送	10,467	5.1%	10,111	5.2%	356	3.5%
交通事故	8,834	4.3%	8,741	4.5%	93	1.1%
そ　の　他	6,751	3.3%	6,270	3.2%	481	7.7%
合計	204,427	100.0%	194,639	100.0%	9,788	5.0%

※その他とは、加害や自損行為などを含む。

傷病程度別搬送人員

単位：人

傷病程度	令和３年	構成比	令和２年	構成比	増△減	増減比
軽　　症	76,368	44.7%	75,429	46.0%	939	1.2%
中　等　症	76,881	45.0%	71,211	43.4%	5,670	8.0%
重　症　以　上	17,765	10.4%	17,440	10.6%	325	1.9%
そ　の　他	8	0.0%	4	0.0%	4	100.0%
合計	171,022	100.0%	164,084	100.0%	6,938	4.2%

※その他とは、医療機関に搬送はしたが、受診拒否など傷病程度の示しがないもの。

年代別搬送人員

単位：人

傷病者年代区分	令和３年	構成比	令和２年	構成比	増△減	増減比
新生児・乳幼児（0歳以上7歳未満）	10,984	6.4%	8,824	5.4%	2,160	24.5%
少年（7歳以上18歳未満）	5,382	3.1%	4,887	3.0%	495	10.1%
成人（18歳以上65歳未満）	58,955	34.5%	56,349	34.3%	2,606	4.6%
高齢者（65歳以上）	95,701	56.0%	94,024	57.3%	1,677	1.8%
合計	171,022	100.0%	164,084	100.0%	6,938	4.2%

行政区別救急出場件数

単位：件

行政区	令和３年	令和２年	増減比	行政区	令和３年	令和２年	増減比
鶴見	15,124	14,243	6.2%	港北	16,498	15,291	7.9%
神奈川	13,113	12,360	6.1%	緑	9,224	8,726	5.7%
西	7,984	7,565	5.5%	青葉	12,329	11,372	8.4%
中	15,374	14,985	2.6%	都筑	8,432	7,940	6.2%
南	12,799	12,254	4.4%	戸塚	15,055	14,023	7.4%
港南	11,806	11,728	0.7%	栄	6,358	6,149	3.4%
保土ケ谷	11,306	10,815	4.5%	泉	8,147	7,521	8.3%
旭	13,660	13,053	4.7%	瀬谷	6,811	6,520	4.5%
磯子	9,173	9,144	0.3%	市外	47	67	
金沢	11,187	10,883	2.8%				

※令和３年中の出場件数の内訳及び搬送人員の数値は、速報値であり、確定値ではありません。
※構成比率は少数第２位を四捨五入しているため、表中の合計が100.0%にならない場合があります。